

【本校の学校教育目標】 社会力を身に付けた児童の育成 「気付き・考え・実行する」熊っ子	【本年度の重点目標】 ◇学校経営 ①小規模特認校としての地域に開かれた教育課程(体験活動)の推進(積極的な改善・開発) ②学校教育目標の具現化に向けた共通認識・共通実践によるチーム力アップ ◇教育指導 ①主体的に自分の考えを構築・表現することが出来る授業づくり ②身についた学力を活用して、友達や保護者や地域の人とつながり、より良い学校を作ろうとする体験活動の充実と創出
--	--

[4：大変良い 3：よい 2：あまりよくない 1：よくない]

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組 織 ・ 運 営	教育目標等の周知と協働体制	学校教育目標や重点目標を意識して目的意識をもって取り組む。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにとって分かりやすく覚えやすい合言葉にしたことは、保護者・地域へも広めやすい。 しっかりした目標があれば、児童もさらにやりがいがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇研修・実践を通して、職員間での共通理解をさらに深める。 ◇義務教育9カ年を見通して中学校との連携をさらに深め、山田中学校区としての「小中一貫教育」を具体化する。
		○合言葉「気づき、考え、実行する」が浸透しており、主体的に学び、日常生活の中でも生かそうとする意識を育てることができた。			
	教育課程の実施	主たる担当の校務分掌で、1か月前に提案して積極的にリーダーシップを取る。	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、先生方はよく協力されている。 ・教育効果をもとに、スクラップ&ビルドを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇この2年間(コロナ禍)の経験を踏まえ、活動や行事の見直しを図るとともに、年間の提案スケジュールにもとづく毎月の運営委員会での確実な確認を通して、状況に応じた提案を行う。
		○コロナ禍への対応として、種々の取組の具体策の見直し等を含めつつ企画・準備等を進めたが、手探りの中、不十分な点もあった。			
教育課程の実施	週案を活用して授業時数を確保し、めあての達成状況を記入することにより、質的管理の推進を図る。	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメントを、担任レベルでPDCA サイクルに則って機能させることが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇引き続き、確実な週案作成・確認・指導助言の充実を通して量的管理の徹底を図るとともに、達成状況の記入に基づく質的管理(授業自己評価)を推進する。 	
	○コロナ禍による行事変更等、変動的なスケジュール管理上、週案による管理は非常に重要となり、各担任等とも適切な作成・活用がなされた。				
教育課程の実施	体験活動は「めあて」を明確にし、児童自ら意欲を持って主体的に学ぶ学習活動とする。	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・とても充実している。 ・自分から学び、また友だちとも助け合いながら、向上心を高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各活動を通して身に付けてほしい力を明確に示し、児童とも事前に確認する等の工夫を通して、学習・活動の意図と児童の「めあて」との整合を図り、支援の充実を図る。 	
	○実施の目的や育てたい力等を確認しながら実施方法等の検討を進めたことで、児童の意欲的な活動を促すことにつながっている。				
総合所見	○昨年度に引き続き「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、計画変更・中止せざるを得ない活動等も多かったが、保護者や地域の理解・協力の下、全職員の協働により、できる限りの実施ができた。本年度の経験を生かし、更に円滑な校務運営の推進と教育活動の充実に努める。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
学 力 向 上	学力向上 を目指す 授業づくり	「熊小授業の進め方(めあて[児童自ら発表]→見通し→一人学び→友だち学び→まとめ→「わ・が・や」タイム→次時は～)」を徹底し、児童に学び方を身に付けさせる。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が目標をもって進進できる工夫をしてほしい。 中学校区での連携した取組を。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「わ・が・や」タイム(メタ認知的自己評価)について、目的や意図を再確認し、児童が自己の学びの高まりを自覚できるようにする。 ◇間接指導時の児童主体の学び方の工夫改善を図る。 	
		○1単位時間の学びの流れは定着してきており、教師・児童ともに構えが身に付いてきているが、各場面の充実が必要である。				
		丁寧な文字指導(ノート指導、作文指導、ひらがなや漢字の指導等)を行い、児童に身に付けさせる。	2.5	<ul style="list-style-type: none"> 字は、上手より丁寧さが大事。 子ども自身が「よくしたい」「改善したい」と思えるようにするための工夫が必要。(例)モデルの提示等 		<ul style="list-style-type: none"> ◇成果物の掲示の充実等を通じて、『よみやすい文字』のよさを感じさせるとともに、自らも丁寧に書こうとする意識を高めさせる。 ◇日常的・恒常的に、声掛け等の丁寧な指導に努める。
		○学習内容の定着を意識するあまり、文字指導等が不十分になってしまう状況があり、十分な変容が見られない児童もいる。				
	学ぶ意欲・ 規範意識 の醸成	学習規律を確立させる。(チャイム・聞き方・発表の仕方・姿勢・忘れ物・筆箱の中身)	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な姿を求めながら、引き続きの取組の推進を。 チャイムの音を聞くとウキウキします。児童はいつでも明るく元気で、ハキハキ発表されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇学習規律は皆で気持ちよく学習するためのものであることを児童とともに確認し、自ら実践しようとする意欲を高める。 ◇日常的な児童の意識化を促す手立てを工夫する。 	
		○学習規律については、十分に身に付いているが、集中力に難がある児童もおり、継続した取組が必要である。				
		立ち止まったあいさつ、心に響く返事、適切な言葉遣い、後片付け、学校の約束を徹底し、児童の規範意識を醸成する。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 規範を守った自分を肯定的に評価する(できる)支援を、意図的・計画的に進めてほしい。 あいさつはよくできていて感心する。学校外でもしてくれている。 		<ul style="list-style-type: none"> ◇引き続き日常的な指導を充実させ、児童の実践意欲を高めるとともに、スキル面(実際の行動・態度等)の指導も根気強く行う。
		○日常的な指導(声かけ)を通して、継続的に意識化を図っていることで、児童の「約束を守ろう」という意識は定着している。				
	学力の基礎 を培う活動	家庭学習定着率90%以上を達成し、書き直しややり直しを徹底させる。	3.8	<ul style="list-style-type: none"> 学校だけでなく家庭での勉強は大事。保護者も一緒に学ぶと学力向上につながる。取組の継続・充実を。 五教科を万遍なく取り組めるような工夫があるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇家庭学習による成果を確認できるようにする等して、取り組むことのよさを実感させるように工夫する。 ◇「自分のための学習」という意識を高められるよう、「自学」をさらに充実させる。 	
		○宿題の提出は、ほぼ100%に近く、書き直し等も休み時間にしっかり取り組んでいるが、「自分のための学習」という意識の弱い児童もいる。				
		児童の実態に応じた補充学習により、弱点を克服する。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身が課題等を実感できるような分析や、定期的なタブレットを活用した取組もあるとよい。 弱点はなくすのは難しく、根気よく続けてほしい。 		<ul style="list-style-type: none"> ◇一人ひとりの「苦手をなくす」ために、共通の課題だけでなく、個々の課題等に取り組めるように工夫する。(タブレット端末の活用等)
		○補充学習の時間の計画的な設定・実施はできたが、主体的に取り組めていない児童もいる。				
読書活動を質的量的に高める。(めざせ〇〇冊・〇〇ページ、おすすめの本、家庭読書)		3.0	<ul style="list-style-type: none"> 本を読むと沢山の知恵を頂ける。 給食後の読書はよい取組。これを機に新たな分野への挑戦等が行われるとよい。 外部(市図書館等)との連携等を進めてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇児童の委員会活動を活性化させ、読書を促す主体的な取組を企画・実施させたり、外部との連携を充実させたりする等して、読書活動への興味・関心を更に高め、習慣化を図る。 		
○給食を食べ終わった後の時間を中心に、熱心に読書する姿が見られる。てんとう虫号も積極的に活用している。しかし個々による差が見られる。						

学 力 向 上	家庭・地域 との連携	家庭学習頑張りカード保護者コメント90%以上を達成する。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・「少メディア週間」等、中学校区で連携した取組の充実を。 ・保護者の協力をお願いしたい。 	◇保護者向け啓発文書の作成・配付、保護者との懇談等を通じて、家庭学習の意義や価値についての理解を深めていただき、学校と家庭の連携の強化を図るとともに、児童の頑張りに対する関心を高めていただく。
		○カードの記入・提出は、ほぼ定着している。取組のねらいや効果についての啓発を通して、さらに保護者の理解を図る必要がある。			
		通信等を通して、保護者・地域に情報を発信する。	4.0	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく丁寧に発信され、学校での活動等がよく見える。 ・「頑張りカード」や「ふわふわ言葉コーナー」等も活用し、保護者・地域の声も採り上げるようにしてはどうか。 	
		○毎週の学級通信、毎月の学校だより等を通して、各種行事・活動や日頃の児童の様子を紹介し、学校の様子を発信することができた。			
総合所見	<p>○共通実践を通して、学力向上に向けた各種取組は一定の成果を上げている。今後も、複式による授業という特殊性を踏まえ、より児童の主体性を育む学習スタイルの確立を目指す。また、「学習基盤づくり」の更なる充実に向け、保護者・家庭との連携を深めたい。</p> <p>○次年度からの「コミュニティースクール」の導入を機に、地域との連携をさらに深め、教育活動の充実を図っていく。</p>				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
体 力 向 上	運動の 習慣化	外遊び等を奨励し、体力アップシートを活用して児童の体力向上を図る。	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を乗り越え、一日でも早く外で自由に遊ぶことができるようになってほしい。 ・「頑張りカード」に『体力コーナー』を設け、意識づけたり継続した取組を促したりしてはどうか。 	◇「体力アップシート」を活用しやすいように環境を整え、日常的に自身の取組状況を確認させ、さらに自身の体力や運動への関心を高める場を設ける。
		○「竹馬週間」「持久走週間」「なわとび週間」を設定し、中休みを中心に全校で屋外運動に取り組むことができたが、日常的な取組は不十分。			
体 力 向 上	基本的な 生活習慣 の定着	「早寝・早起き・朝ごはん・少ゲーム」の取組を推進する手立てを講じる。	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣は大事。ダラダラは身体にも影響しかねない。家庭内でも時間を守ってほしい。 ・自分自身でタイムマネジメントできる力(=自己指導力)の向上に努めてほしい。 	◇保護者との連携をより強め、家庭ぐるみで協力を得られるように努めるとともに、児童の達成意欲を喚起するような手立てを工夫する。
		○PTA 活動「“新”家庭教育宣言」や中学校区での「家庭学習週間」の取組を連携し、保護者の協力のもと取り組んだが、時間のコントロール等で、なかなか自立的な取組にならない児童もあった。			
総合所見	<p>○今年度は、コロナ禍においても「感染症対策のもとでの体力づくり」に、積極的に取組を工夫することができた。</p> <p>○基本的な生活習慣については、PTA・保護者・家庭との連携をさらに強化し、取組の充実・推進を図る。</p>				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
豊かな心の育成	よりよい人間関係の構築	自ら範を示し、日常の挨拶や返事、丁寧な言葉遣いについて指導し、児童相互・児童と教師の好ましい人間関係を構築する。	3.7	<ul style="list-style-type: none"> 児童と教師の関係は微笑ましい。 より一層の充実を。 	◇学校として目指す姿を児童と教師で共有するとともに、相互理解・相互信頼をさらに充実させ、好ましい人間関係のよさを実感させる取組の充実を図る。
		○各職員による日常的な指導と合わせて、全校による「いいとこ見つけ」等の取組を通して、好ましい人間関係が構築されている。			
	道徳教育の充実	<p>特別の教科道徳の時間において教科書を活用し、指導と評価を充実させる。</p> <p>○年間計画に基づき、各価値項目に偏りがないように指導を進めるとともに、児童の感想やふり返りをもとに、学習の成果を見取ることができている。</p>	3.3	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の時間は必要。続けてほしい。 道徳の時間を、「議論の場」となるような指導の工夫を研究してほしい。 	◇より児童が主体的に考え表現する道徳の時間となるように、教材研究を深めるとともに、学習する道徳的価値を日常生活に一般化させ、児童に実践意欲をもたせるようにする。
いじめ防止	<p>いじめ防止、早期発見・対処について常に気を配り取り組む。</p> <p>○児童の様相に常に目を配り、積極的な生徒指導も心がけている。児童間のトラブルも問題に発展しないよう対処を進めていく。</p>	3.9	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止には、これからも取り組んでください。 子ども同士の人間関係や教師の子ども理解をより充実させてほしい。(研修等) 	◇丁寧な児童の見取りの継続、各種アンケートや調査の結果の入念な分析と考察、家庭との連携のさらなる充実を行うとともに、児童と児童、児童と教師のコミュニケーションを更に密にさせ、日常の積極的な生徒指導を充実させる。	
総合所見	○全体的には、自分・まわりの友だちを大切にしている気持ちも育っているが、個々によっては、課題等の克服が未だ成っていないところも見られる。 次年度は、自他を思いやる心のより豊かな成長を目指して、さらなる道徳教育や体験活動の充実・活用と、個への対応を推進する。				

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
主題研修等	校内研究の充実	国語科複式・少人数授業に係る主題研究を積極的に推進する。	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 児童たちは、意欲的に自分たちで前に進んでいる。 小中での研究推進の状況を、担当者同士で意見交流する場の設定も。 	◇中学校区での交流も踏まえつつ、本校としての、児童の「主体的・対話的で深い学び」を導く学習指導の在り方の究明を柱に、引き続き研究に取り組む。
		○指導主事を招聘しての研修を年間5回(授業研修3回、理論研修2回)実施し、よりよい複式授業のあり方を中心に研究を行うことができた。			
主題研修等	一般研修の活性化	積極的な校外研修への参加や文献による資料収集を行い日常の教育活動に生かす。	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 主題研修と一般研修を関連付けた実施等の工夫も大切だと思う。 現状では苦しいところもあると思うが、子どもたちと一緒に学び続けてほしい。 	◇還流学習会を、職員相互による学び合いの場として位置づけ、互いに積極的に学ぶ機会を、さらに充実させる。
		○コロナ禍により各種研修会等も限られていたが、各職員とも意欲的に研修し、校内での還流も行った。			
総合所見		○1学期の授業研究を踏まえた2学期の授業研究等、指導主事の指導の下、全学級での検証授業等を通して、研究主題についての研究に取り組むことができた。次年度は、これまでの成果・課題を踏まえながら、研究発表会の開催を通して、積極的に研修を深めていく。			

領域	項目	評価指標・自己評価	職員	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
環境構成等	安心・安全の確保	児童の安全確保・安全管理に努め、緊急対応マニュアルを熟知し、実働できるようにする。	2.0	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、安全管理をお願いします。 様々な危機に対応・対処する力を身に付けるよう、計画的に研修を。 	◇「学校は子どもたちの命を預かっている」という視点で、改めてこれまで取り組んできた対策等について見直し・整理するとともに、必要に応じて付加修正・共通理解し、職員間で協働して取り組むことができるようにする。
		○年度当初にマニュアルの確認、避難経路の確認等を行うなど、安全への意識付けを図るとともに、毎月安全点検を実施し、安全確保に取り組んだ。			
環境構成等	学びを支援する環境整備	教室や廊下の掲示物や作品には、学習の振り返りや達成感、発展を促す工夫を行う。	3.4	<ul style="list-style-type: none"> 掲示物やいろいろな作品の展示は工夫されていて感心する。 「環境が人を育てる」とあるように、環境に気を配ることは大切。 	◇成果物の展示を工夫し、本人により深い達成感を味わせるとともに、他の児童の動機付けも図れるようにする。
		○学習の成果物等を随時掲示・展示することで、児童も互いの作品を見合い、達成感を味わったり、互いの参考にしたりすることができている。			
総合所見		○児童の安全が確保され、安心して通える・学べる学校づくりのため、今後も継続して危険個所の点検・修繕に取り組むとともに、起こりうる危険の想定やそれへの対応の準備を徹底する。また、児童の学習への意欲を高め、よりよい学びを促す環境整備(掲示等の工夫・改善)にも努める。			